重信町の

文化財と史跡

（第２集）平成９年度版

重信町立図書館 ☎64-3414
00100427

重信町教育委員会

はじめに

私たちの重信町は、７千万年前ころに現在のような「かたち」になり、その自然のなかで、ほぼ２万年前から人々の生活が始まったようです。

平成４年から９年にかけて行った、町の各事業にともなう町内の各地での発掘調査の結果は、それらのことをより鮮明にしてくれました。

この「重信町の文化財と史跡」（第２集）平成９年度版は、平成３年度版の「重信乃文化財」第１集出版後に、新しく指定された文化財、発掘調査によってもたらされた埋蔵文化財、それに平成９年現在、町内に伝わる民俗芸能なども加えました。

町内のみなさんの町内文化財巡りや、史跡などの案内書となれば幸いです。

新指定に関しまして、特に樹木の調査では大変なご足労をいただきました東雲短大森川國康、松井宏光両先生に、また冊子の発刊に際しては、ご指導をくださいました町文化財保護審議会に、厚くお礼を申し上げます。

平成10年３月

重信町教育委員会教育長　高　橋　謙　一

目　　次

指定・記念物（天然記念物）

1	北吉井のビャクシン	国・記念物（天然記念物）
2	ベニモンカラスシジミ	県・記念物（天然記念物）
3	漣痕化石	町・記念物（天然記念物）
4	大ツツジ	〃
5	ヤブツバキ	〃
6	クヌギ	〃
7	稲荷五社神社社叢	〃
8	烏ケ嶽城跡叢林	〃

指定・有形文化財

9	木造聖観音菩薩立像	県・有形文化財（彫刻）
10	五十八社大明神の雨乞い面	町・有形文化財（工芸）
11	鼻高面	〃（歴史資料）
12	層塔及び五輪塔群	〃（歴史資料）
13	経塚	〃（歴史資料）
14	別府の石造物群	〃（歴史資料）
15	上林の六十六部回国供養塔群	〃（歴史資料）
16	木樋（門樋）	〃（歴史資料）
17	銭壺及び古銭	〃（歴史資料）
18	鉄鉾	〃（歴史資料）
19	三輪田米山筆三十六歌仙絵馬	〃（絵画・書跡）

指定・無形文化財

20	楽頭	町・無形文化財（民俗芸能）
21	ねり行事	〃（民俗芸能）

その他の文化財

埋蔵文化財

22	自然緑釉長頸壺	志津川古墳群出土須恵器
23	子持ち壺	〃
24	人物・子持ち壺	志津川古墳群出土須恵器
25	伽藍の軒丸瓦	伽藍1号窯跡出土
26	「中」刻字坏身片	〃　須恵器片
27	西岡窯予州松山記銘陶磁器片	西岡窯物原跡表採
28	上村壱町古墳	上村上ノ段遺跡

有形文化財

29	土俵空穂	北野田徳威三嶋宮
30	芝山持豊和歌詠草軸	〃
31	玉殿神座と迦陵頻伽	志津川天満宮
32	騎馬中国武将絵馬	〃
33	雨乞い三面	北野田徳威三嶋宮 牛渕浮嶋神社

民俗資料

34	野田天神	南野田

樹木

35	シラカシと龍神社社叢	山之内龍神社
36	臥龍の松	西岡

民俗芸能

37	獅子舞	樋口獅子舞外12地区
38	里神楽	上林神楽外４地区
39	祝福芸	上林伊予万歳
40	盆踊り	志津川和田霊堂

中世古城跡

40～47	烏ケ嶽城跡外７城跡

重信町文化財散歩地図

表紙　拝志古窯群１号窯跡出土瓦・志津川古墳群８号墳出土長頸壺

指定文化財　21件

国・記念物（天然記念物）

1　北吉井のビャクシン（ヒノキ科）

Hinokuchi　Kitayoshii no Byakushin

指定年月日　昭和23(1948)年12月18日
所在地　大字樋口字片山甲1045
所有者　大字樋口1025　大蓮寺
学名　Juniperus Chinensis Linn
樹齢　推定800年以上
樹容　樹高20m　根廻り約７m
枝張りの径は12m
地上１mで２幹に分かれ、
それぞれの周囲は４m。

昭和22(1947)年、樋口の和田儀一さんのお世話で東大の本田正次郎氏の調査を受け、その価値が認められました。

ビャクシンはヒノキ科の針葉樹で、イブキとも呼ばれるのは、滋賀県の伊吹山の自生説と、土器の蒸し器の蒸気抜きの穴に、この木の葉を詰め物にしたことからと、二つの説があります。

全国で国指定は10本。うち県内には、伊予三島市、宇和島市、そしてこの北吉井の樹と３本が指定されています。

このビャクシンは雌株で、春に可憐な花が、秋には暗紫色の４㎜ほどの実をつけてくれます。

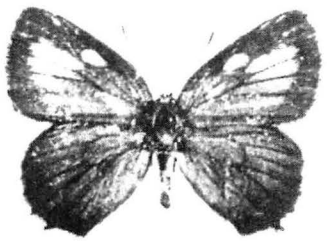
この樹の場所は、明治４(1871)年廃寺となった背後の岩峰山円通寺の境内でした。住職だった和田氏は、石鎚講の大先達で、先祖がお山から持ち帰って植えたとの言い伝えが残っていますが、石鎚山でのビャクシンの自生は不明です。

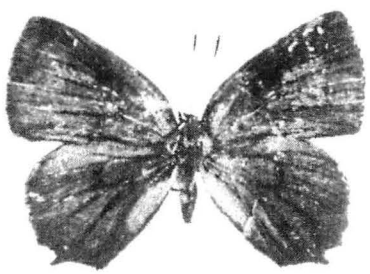
県・記念物（天然記念物・天第67号）

2　ベニモンカラスシジミ

Saragamine　Benimon Karasu Shijimi

指定年月日	昭和37(1962)年３月23日
生息地	大字上林大口山（皿ケ嶺連峰自然公園内）
所有者	農林水産省林野庁
原種学名	Strymonidia iyonis OTA et KUSUNOKI 1957
形態	シジミチョウ科に属する蝶の一種。羽を広げても３㎝足らずで、オスは前翅の表面に赤色紋があり、メスはやや不明瞭紋。





昭和31(1956)年７月、当時愛媛県立博物館員（現南日本自然史博物館長）であった楠博幸氏が、皿ケ嶺北側の原生林と植林地との境界付近でミヤマカラスシジミを採集した中に、本種のメスが１頭混っていたことから、同館の太田喬三氏と研究、翌32(1957)年に得た雌雄７頭を基に昭和33(1958)年、学会に発表しました。

日本では、蝶の新種発見はないと思われていた折で、学会に大きな衝撃を起しました。

食草は「コバノクロウメモドキ」日本にのみ産する蝶で、最も下等な属種として学術上貴重な生物です。

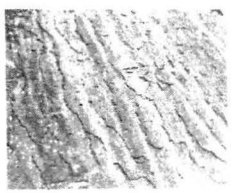
昭和50(1975)年代に、広島と岡山で発見されたとの報告がありましたが、最初の発見地皿ケ嶺では、マニアの乱獲により現在は不明です。

町・記念物（天然記念物）

3　漣痕化石

Yamanouchi Deai　Renkon Kaseki

指定年月日	昭和56(1981)年７月１日
所在地	大字山之内字出合乙786－1　保安林58,169㎡の内
所有者	大字西岡126　花山良博
造成期	約7,000万年前
岩容	縦約50m　横幅約20m
岩質	白亜系和泉層群（岩砂と頁岩の互層の堆積）が海に堆積した地層の凝灰岩。



昭和54年(1979)年、関西大学院生の地質研究グループによって発見され、愛大高橋治郎氏の調査研究で約7,000万年前の波の跡の化石「漣痕」（リップル　マーク）と分かりました。

山之内は海の底だったのです。

地殻変動により、海であったところが陸となり、水平に堆積していた地層が南に50度傾き、かぶさっていたものが流されたり、崩れたりして、化石になった部分が顔を出したのです。

この角度を水平に戻したとして考えると、7,000万年前の海水の流れる方向や岩となった波の形から、現在の海岸から20㎞奥の岩肌が、海も沖合の深いところで出来たことなどが確認できます。

おうむ貝の化石などが見つかるのも、そんなことからです。

重信町の最も遠い過去を語ってくれる、生き証人のような岩肌なのです。

町・記念物（天然記念物）

4　大ツツジ（ツツジ科）

Minara Ikegawa　　Ootsutsuji

指定年月日	昭和56(1981)年７月１日
所　在　地	大字見奈良1032－1
所有管理者	同　　池川タケ子
学　　名	Rhododendron pulchrum
樹　　齢	推定130年
樹　　容	樹高2.8m　枝張り2.7～3.0m　枝周囲20m　地上40cmで大枝10数本にわかれ、円形丸傘形の姿。花径５～７cm　紫紅色。ヒラド系オオムラサキ

明治中期に、池川さんのご先祖が極めて珍しいツツジとして譲り受け、落葉などもそのままに、できるだけ自然の状態を保つ管理を心がけられ、人の手を加えるのは、年２回病虫害の予防措置をする程度に留めているそうです。

昭和55(1980)年今治明徳短大山本四郎氏が調査され、各地で見られるヒラドツツジの諸品種に比べ、紫紅色の花色が典雅で華麗であると価値が見いだされました。

毎年、端午の節句をはさんで、直径５～７cmの花が無数に咲きます。

県指定の越智郡上浦町の村上高徳氏宅のや、松山市指定の久万の台、成願寺のオオムラサキと肩を並べる県内屈指の老大木です。

町・記念物（天然記念物）

5　ヤブツバキ（ツツジ科）

Yamanouchi Fumoto　　Yabutsubaki

指定年月日	平成９(1997)年４月１日
所　在　地	大字山之内字麓1093　薬師堂前庭
所有管理者	同　　1075　麓組
学　　名	Camellia japonica Linn
樹　　齢	推定200年
樹　　容	樹高550cm　枝張り東西980cm　南北880cm　目通り190cm　地上１mで２幹に分かれ、左の幹は164cm、右の幹は126cm、根廻りは164cm。

標高677mの十門城跡の山腹にあることから「麓」の地名を持つこの地区は、過疎のなかにもかかわらず、毎年８月14日の夜、室町ころの念仏踊りの形態を伝える「楽頭」が舞われます。

その舞を演ずる薬師堂の前庭斜面に傾斜して生えているのが、このヤブツバキで、県内８番目の大木。

幹の下部が「うろ」状になっていますが、明治初めの大火のときの傷ではないかと「麓組」では伝えられています。

もともと山野に自生することから「藪椿」と名付けられている樹です。樹勢は旺盛で、東雲短大森川國康氏、同松井宏光氏によって、樹容・樹齢などの価値が見いだされました。

町・記念物（天然記念物）

6　クヌギ（ブナ科）

Shimohayashi Minarajinja　Kunugi

指定年月日　平成９(1997)年４月１日
所　在　地　大字下林字助兼甲962　三奈良神社
管　理　者　同　　字助兼1033　三奈良神社宮司
学　　名　Quercus acutissima Carruth
樹　　齢　推定130年
樹　　容　樹高19m　枝張り東西20m　南北19m　目通り301㎝
幹は東側に傾くも、枝は南北水平に伸びており、クヌギとしては、珍しい枝張りを見せている。

町内の重信川流域には、かつてはクヌギ、アベマキ、コナラ、アカマツなどの林が広がっていました。その名残は、横河原の国立療養所愛媛病院や、志津川の県立東温高校内の一部に見ることができます。

しかし、三奈良神社のクヌギほどの大木はなく、この木は、昔の重信平地部の景観を象徴する存在と言っても過言ではないでしょう。秋に実るドングリが少ないのは、老木のためでしょうか。

根元から1.5mほどまでは、幹部が空洞になっていますが、樹勢は実に旺盛です。

また、すぐ手前には、日本民俗学創立者の柳田国男と歌人であり民俗学者でもあった折口信夫（釈　超空）の歌碑があり、風情をそえています。

町・記念物（天然記念物）

7　稲荷五社神社社叢

Yamanouchi　Inari gosha jinja shasou

指定年月日　平成９(1997)年４月１日
所　在　地　大字山之内字柚ノ木2151
所　有　者　同　　字柚ノ木2151　稲荷五社神社
群落組成　高木層　スダジイ・コシアラブ・アカガシ
亜高木層　スダジイ・アカシデ・ヤブツバキ・リョウブ・イロハモミジ・モミ
低木層　スダジイ・カヤ・コツクバネウツギ・ネズミモチ・ヒサカキ・ヤブツバキ・サカキ・アラカシ・シラキ・ヤマウルシ
総　面　積　12,326㎡

標高約330mの境内は、スダジイを主とする照葉樹林であり、松山平野に発達していた原生林の姿を留める森として極めて貴重な群落地です。

ウラジロガシも多く、その他、モチノキ・モッコク・ツクバネガシなども混在し、低木にはヤブツバキ・サカキ・ヒサカキなどが自生しています。

長い石段を上がりきったところの右手に、スギとコウヨウザンの大木が根元で合わさって、めったにない形でそびえ立ち、境内の左奥には、周囲450㎝、高さ17mのアカガシが悠然と枝を張っています。下から見たときよりも明るく感じる境内の背後にも古木が…。それらの樹々は「鎮守の森」を再認識させてくれます。

町・記念物（天然記念物）

8　烏ケ嶽城跡叢林

Yamanouchi　Karasugadake joushi sourin

指定年月日　平成９(1997)年４月１日
所　在　地　大字山之内字藤之内437－1～439－1
所　有　者　同　字柚ノ木2151　稲荷五社神社
群落組成　登口　スダジイ・ツブラジイ・ケヤキ・コナラ・イロハモミジ・アラカシ
登口下部　ヤブツバキ・ツクバネウツギ・ヤブコウジ
上部　サカキ・ソヨゴ・リョウブ・コナラ・ウラジロガシ・エンコウカエデ
総　面　積　26,762㎡

稲荷五社神社社叢とともに平成元(1984)年、東雲短大森川國康氏松井宏光氏の調査で、照葉樹林の残存林として中予地区では特筆すべき希少な群落であり、将来にわたって郷土の自然遺産として厳重に保存すべきと評価されました。

標高370ｍの山頂付近には、小規模の中世山砦を感じさせる二本の堀切跡と二つの郭跡を残す烏ケ嶽城跡がありますが、林そのものは、急斜面の自然林の姿を残しています。

中腹より少し上に立っている目通り243㎝のコナラ、307㎝のウラジロガシの樹容は見事です。

道路に面した急傾斜の部分は、平成９(1997)年の台風で傷みましたが山容はしっかりとしており、これより先の奥重信と呼ばれる自然景観への関門とも言える景勝地です。

県・有形文化財（彫刻）

9　木造聖観音菩薩立像

Yamanouchi Fukumisan　Mokuzo Seikannonbosatsu Ritsuzo

指定年月日　昭和51(1976)年４月６日
所　在　地　大字山之内字福見1625
所有管理者　同　1490　福見寺
法　　量　総高161㎝　肩張り39.5㎝
材　　質　桧一木造り
像　　容　両手首より先欠損、漆地彩色の跡あり。
製作時代　推定　平安後期

山之内の砕石場を過ぎたすぐの道路左側にある、文久元(1861)年刻字の「福見山観音道」の道標に従って林道を２時間余り、山頂近くに俵飛山福見寺奥の院があり、その本尊です。

ふくよかな頬、末端がやや上がる眉、ほとんど水平とも言える半眼、しまった口もと、衣のひだの柔かさ…。

かつて、水月観音、福見観音と呼ばれて、人々に親しまれていたこの像は、地方の山深くにあっても、都風の洗練された感を与えてくれる異色の立像ですが、常は収蔵庫に収められ、８月９日の縁日のみ開帳されます。

高縄山を中心とする高縄半島には、平安期から鎌倉期にかけての古刹や祈願所が多く、この福見寺もその一つと考えられます。

寺号の俵飛山は、行者法道仙人が、瀬戸内海を通る米船から福見山まで米俵を飛ばし、また船に返した伝えからの呼称とか。

町・有形文化財（工芸）

10　五十八社大明神の雨乞い面

Yamanouchi Fumoto　Gojuhachishadaimyojin no Amagoimen

指定年月日	昭和44(1969)年10月1日
所在地	大字山之内字麓1093
管理者	同　1075　五十八社神社総代
面量	縦22.5cm　幅15.0cm
材質	木（材質不明）
面容	猩々面
時代	推定　室町期
面箱墨書	遠江守宝物　水難火難盗難除龍猩精（後代記入）

五十八社とは、長慶天皇の随身58人を祭ることから来た呼称。

重信町には、仮面を納め祭る社が他に6社あり、そのすべてが水（雨乞）にかかわっていることが特色です。

この仮面はその最古式と推定され、ご神体同様「御面様」と尊称され、雨乞神事を行い霊験を得た記録も残っていますが、常は門外不出。同地の薬師堂周辺の石造物は、室町期の形式を持ち、調査に来られた早大後藤淑氏は、仮面も同期の作と言われます。

また、山腹の人々が住む地名を「麓」（府本）と称するのは、加藤遠江守の重門城（十門城）から見て、下にある集落から言われた中世の地名。別に城府から来た地名などの説もあります。

遠江守が実在人物か伝説上の人かは不明です。

町・有形文化財（歴史資料）

11　鼻高面

Shimohayashi Minarajinja　Hanatakamen

指定年月日	昭和55(1980)年7月1日
所在地	大字下林字助兼甲962　三奈良神社
管理者	同　字助兼1033　三奈良神社宮司
面量	縦25cm　幅16.8cm
材質	桧
時代	推定　室町末期
面裏墨書	永禄三年八月初五日 再建三奈良大明神之鼻高者也　相原出雲守同女中願主也 以下4字不明
面容等	鼻は接鼻・面全体に胡粉下地朱掛けの跡がみられる現在は剝落し木地のまま。植毛痕なく紐穴を持つ。

鼻高面は、後に天狗鼻面に移りますが、この面は完全な天狗鼻になり切ってはいません。

天狗鼻は、15C半ばがその初見とされていますから1560(永禄3)年のこの面は、古式を残すものと考えられます。

面裏墨書銘の相原出雲守経秀は「与州天神森城主」として高野山上蔵院文書の裏付けもあり、戦国期資料としても貴重な面です。

神社では、猿田彦神（奈賀礼白鬚宮）として祭っていますが、別に白鬚明神の神杖が（文明3年記銘）伝わっています。

町・有形文化財（歴史資料）

12　層塔及び五輪塔群

Shimohayashi　Souto̓ ・ Gorintogun

指定年月日	昭和45(1970)年３月21日
所　在　地	大字下林字仙幸寺2098
所有管理者	同　　甲1586　小山駿一郎
塔群状態	層塔２基・五輪塔５基　高さ180～82㎝
石　　質	凝灰岩
時　　代	推定　鎌倉後期～南北朝前期

この層塔と五輪塔群は、仙幸寺一帯に散在していたものを、昭和44(1969)年に青年団が一ケ所にまとめたもので、土地の人々は塔頭から「おたちゅうさん」と呼び、大切にしています。

形態は、県内にある普遍的なもので、近くの四国88カ所47番札所の八坂寺に同形式の層塔が見られます。

現在の塔群の構成は、昭和44(1969)年に整理したときのままで、一部に別基ではとか、重層の異なりとかが見られなくもありませんが、鎌倉末の遊行僧（念仏聖）が土地の人々と結びつき、石塔建立をすすめた庶民仏教の当時を語ってくれます。

また、付近には、金堂（かなど）・奥老坊（おくろんぼう）東王寺（とうじ）等の地名もあり、石塔類の破片などが見受けられます。

町・有形文化財（歴史資料）

13　経塚（猿塚）

Shimohayashi Hachiman　Kyozuka

指定年月日	昭和45(1970)年３月21日
所　在　地	大字下林字八幡甲193－2
所有管理者	同　下林甲179　森　文雄
塔　　形	宝篋印塔型石塔　高さ98㎝
石　　質	礫岩
時　　代	推定　室町期

土地の人々が猿塚と呼んできた、７㎡余りの塚状の盛り土の中央に立つこの石塔は、形式的には宝篋印塔ですが、断定しがたい独特の姿の石造物です。

独自性を挙げると、塔の規模が大であり、経塚としては類例のあまりない人為的丘上の石造物であること。摩滅、損傷はあるものの原型の味は十分に残しているなどがあります。

土地の人々が猿塚（庚申塚）と呼ぶのは、庚申の日から竹・樹を伐る「つちの日」選びをすることとか、塔の立つ場所が八幡社（拝志神社の旧社名）から直線的に西にあるなどから発生した呼び名でしょうか。

塔の基礎部分に空洞があり、舎利壺か経石が納められていたのでは…人工的な小丘は古墳跡では…等の思いをふくらませてくれつつ、当時の民間信仰を秘めて、静かに立っています。

町・有形文化財（歴史資料）

14　別府の石造物群

Shimohayashi　　Befu no Sekizoubutsugun

指定年月日　平成９(1997)年４月１日
所　在　地　大字下林字仙幸寺甲2073－2
所有管理者　同　　仙幸寺東組
群　形　等　1　安永10(1781)年記銘享保17(1732)年餓死者50回忌の碑
　　2　同時建立　座像地蔵尊
　　3　昭和18・20・21(1946)年大水害供養　復興地蔵尊
　　4　文化10(1813)年金毘羅道　道標
　　5　石積台座常夜燈

享保17(1732)年の天候不順とうんかによる大飢饉のとき、地区の大安寺の過去帳によると、下林村の死亡は44名。

当時の年間死亡者が５～６人であったことを考えると、大変なことでした。

50年後の回忌供養塔建立は、当時の指導者もですが、江戸末の農民の心根が偲ばれます。

また、昭和18・20・21年大水害復旧工事のとき、松山刑務所受刑者４人が土砂崩れのため犠牲となった供養の地蔵尊。そして、珍しい石積みの台座の常夜燈と旧金毘羅街道の道標。

拝志大橋、南側のたもと約40m²の広場は、「地域の歩みを凝縮した、鎮魂と旧街道の交通の広場」として貴重な史跡です。

町・有形文化財（歴史資料）

15　上林の六十六部回国供養塔群

Kamihayashi　　Kamihayashi no Rokujurokubu kaikoku kuyoutogun

指定年月日　平成９(1997)年４月１日
所　在　地　大字上林字友清2913外６基
所有管理者　同　　甲2193　森修一・甲700　山内数延・花山・谷・高智組
群　　形　天明５(1785)年～文政５(1822)年まで、ほぼ40年間にわたり建立された上林地区の７基。
石　　質　すべて自然石。
時　　代　江戸末期

町内には、現在のところ15基の回国塔があり、内７基が上林地区の県道沿いに集中的に立てられています。

釈迦滅後56億７千万年後に弥勒菩薩が人々を救う。それまで経典を守って後世に伝える目的で、66部の経を書写し、全国66か国の代表的な社寺（霊場）に一部ずつ奉納して巡る宗教者を「六十六部」略して「六部」、「回国聖」などと呼びました。

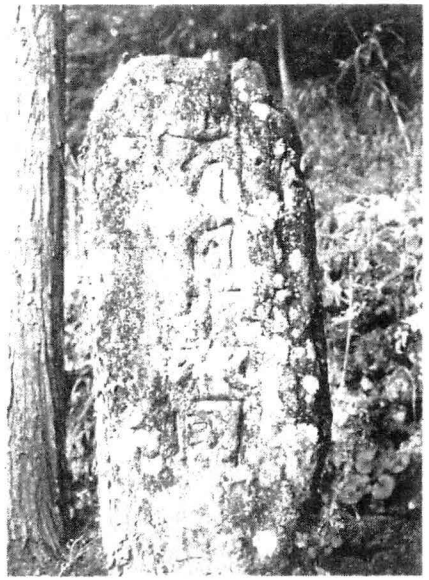
その納経満願のしるしが「回国塔」です。（明治３(1870)年廃止令）

上林の回国塔の特質は、どれも巨大で建立に相当の財力や人力の合力があったこと。集中的にあり、回国の行者や建立者が村人にとっては旅の人が多いこと。刻文に「天下和順・日月清明」といった大らかさがあること。そして、上浮穴郡との交通にも思いを馳せさせてくれることなどが挙げられます。

また、町内で今のところ最も古い回国塔は、牛渕墓地内にある天明７(1787)年信州善光寺村某建立のものではないかと、森正史さんの調査があります。

上林・谷　天明5(1785)年

上林・高智　寛政6(1794)年



上林・花山　寛政9(1797)年

上林・高智　文化4(1807)年

上林・花山　文化10(1813)年

上林・谷　文化11(1814)年

上林・友清　文政5(1822)年

町・有形文化財（歴史資料）

16　木樋（門樋）

Rekishi minzoku shiryôkan　　Mokuhi

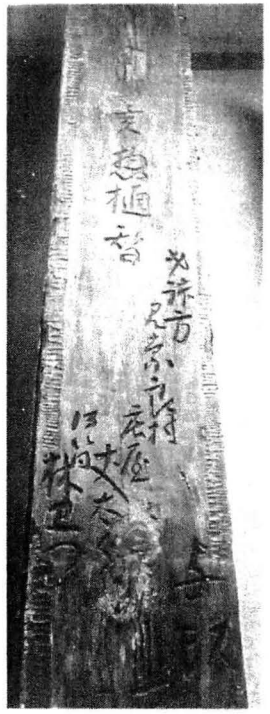
指定年月日	平成９(1997)年４月１日
出　土　地	大字上村甲827源平谷池
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
材質形状	赤松の刳り貫き・一部に肌焼き跡
	樋本体　長さ435cm　深さ26cm　幅40cm
	樋　蓋　長さ370cm　厚さ８cm　幅40cm
蓋の刻文	文政十丁亥惣樋替　才許方　見奈良庄屋丈太郎
	郷筒林衛門　与頭万吉・円次　大工新蔵・林介

この樋は、昭和61(1986)年、町内上村の源平谷（古名は源兵衛谷か）池近代改修工事中に堤の最下部から発見されました。

上村地区の水田灌漑は、ほとんど溜池の利用であり、現在も８池あり、源平谷池はその最大のものです。

木樋は堤防上部から11m下の水門口に近い位置にあり、蓋の上には、白い丸石が２個置かれ、同様な木樋が20本、真っすぐに継がれていました。池水を通すために赤松の大木を掘りえぐった技術も、高度なものです。

いつ・だれが・何のためにとの資料を身につけて出たこの木樋は、上村地区の溜池の築造年代や、見奈良村の庄屋が、なぜ隣村の工事にかかわったのかなど、今後に待つ課題も投げかけています。

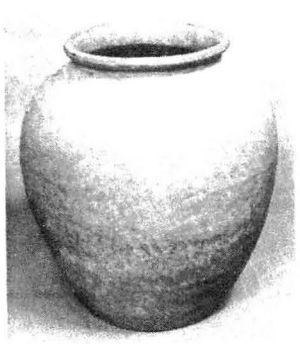


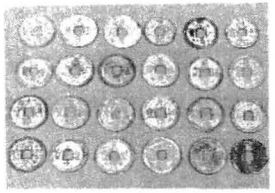
町・有形文化財（歴史資料）

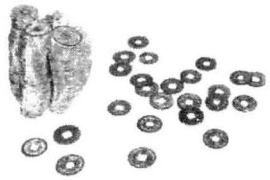
17　銭壺及び古銭

Shimohayashi　　Zenitsubo ・ Kosen

指定年月日	昭和56(1981)年７月１日
出　土　地	大字下林字定力・古大寺
所　有　者	同　　字助兼1033　三奈良神社宮司
所在場所	町立歴史民俗資料館
材質形状	高さ68cm　胴径195cm　口径38.4cm　古備前
時　　代	壺＝室町初期　唐・宋銭＝大化期～鎌倉期







昭和31(1956)年６月、下林の丹生谷利満さんが字定力（じょうりき）の通称「古大寺」と呼ばれる田地の地下げ中、約１m掘ったところで、大壺を掘りあてました。

壺の口は、石を置いて蓋にし、内部には腐食して塊状となった古銭が、ぎっしりあったとか。日を置いて、少し離れた場所から二つ目の壺が掘り出され、やはり古銭が６分目ほど入っていたそうです。

残念なことに、きちんと調査されないままに散逸し、現在歴史民俗資料館に、二度目に出た壺とともに、いく枚かをまとめて紐に通した形などで500枚ほど残っているのみ。

その中で、最も古いものは、621年の開元通宝。新しくは咸淳元宝1265年のものでした。また、壺については、倉敷考古館の間壁忠彦氏の調査で、古備前（14Ｃ半ば）の優品と確認されました。

町・有形文化財（歴史資料）

18　鉄鉾

Shimohayashi Minarajinja　　Tetsuhoko

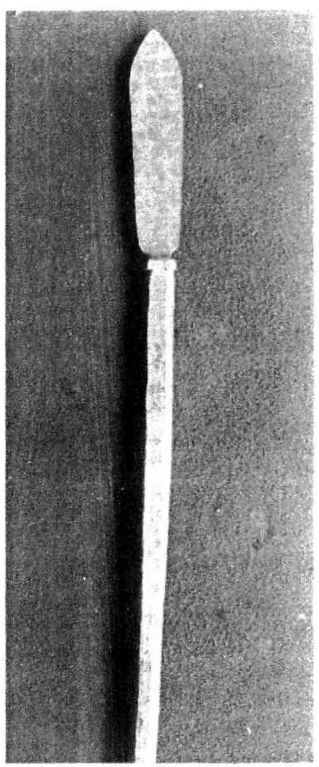
指定年月日	昭和56(1981)年７月１日
所　在　地	大字下林字助兼甲962　三奈良神社
管　理　者	同　　字助兼1033　三奈良神社宮司
材質形状	木・鉄　長さ109.8cm　鉾先20.6cm　柄(89.56cm)樫材
時　　代	室町期
柄　墨　書	応永二十八(1421)年辛丑卯月廿六日　奉施入　滝之宮三嶋大明神 願主　太郎三郎

この鉄鉾が奉納された応永28(1421)年とその前後は、全国的に旱魃、飢饉、疫病があったときです。

願主太郎三郎については不詳ですが、そんな厄事を払い除く意味もあって、心願かけた彼の自作の鉾の奉納ではないかと思われるのです。鉾はそれほど素朴な仕様です。

また、木地のままの柄に残る墨書は、この社の由緒、名称を語る根本資料と言えます。

三奈良神社は、初め神明宮・滝之宮、鎌倉期には三奈良宮と呼ばれ、室町期では総社滝之宮三島宮、江戸期には滝宮御奈郎大明神などと称していました。なお、この社には「流れ宮」の伝えや町有形文化財の鼻高面、天然記念物クヌギの大木もあります。



町・有形文化財（絵画・書跡）

19　三輪田米山筆三十六歌仙絵馬

Noda Tokuimishimagu　　Miwata beizanhitsu 36kasenema

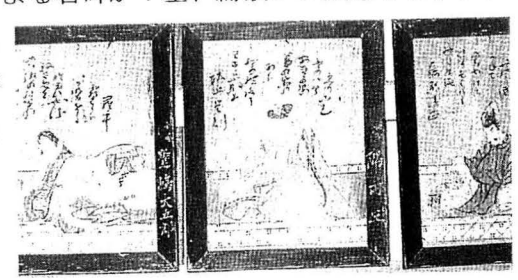
指定年月日	昭和56(1981)年７月１日
所　在　地	野田１丁目20－11　徳威三嶋宮
管　理　者	同　　20－12　徳威三嶋宮宮司
材質形状	桧板 縦44cm　横235cm　35枚　墨書和歌・彩色歌仙絵
時　　代	明治34(1901)年
作　　者	新古今墨書三輪田米山　歌仙絵　藤田光蔵

米山81歳の作です。それは、中島町睦月島の注連石の豪筆端然とした「孳孳為善」を書いた年。

最高のものを生んだときの「かな文字」が、野田と松山市中野町の大氏神であるこの社の幣殿に、35枚の絵馬として奉掲されています。

図は、一歌仙一扁額形式で、柿本人麿呂から17人が左を向き、紀貫之から18人が右向きに描かれる通式の36歌仙絵馬ですが、残念なことに、藤原興風の１枚がありません。

重信町内には、米山の文字による石碑が７基、篇額が２点ありますが、歌仙絵はかな文字であり絵馬となっていること、珍しく米山が新古今集をものにしていることなどが特徴です。



画工の藤田光蔵については、現在のところ不詳です。

町・無形文化財（民俗芸能）

20　楽頭

Yamanouchi Fumoto　　Gakutou

指定年月日	昭和44(1969)年10月１日
所　在　地	大字山之内字麓1093
保存管理者	同　　1075　麓組
様　　式	神仏混交の念仏踊り。
構　　成	神主・大堤婆・小堤婆・鉦打ちと念仏衆。
行　事　日	８月14日夜
場　　所	麓・薬師堂前広場
発　生　期	室町期と思われる。

盆の行事として、地区内の新仏の供養念仏を終えた後、地区民が薬師堂の前の広場に集まり演じる原型的念仏踊り。

白衣・白足袋姿の神主は、数珠と榊を持ち、石地蔵尊と石塔の前で、祝詞（大祓詞）と般若心経をあげた後、神明諸仏（高神様）を勧請してから、数珠を繰って丁半の数をとってオクジオロシをします。その間大堤婆・小堤婆・鉦打ちは、集まってきた人々の東西に分かれた「ナミアムダーブヤ、ナーマミダー」の掛け合い念仏に和して、楽をはやしつつ乱舞します。

オクジオロシの結果が丁にならなければいつまでも…。

かつては山之内の各地区で演ぜられていたそうですが、今はこの麓地区のみ。なお類似の伝統芸能が、松山市福見川にもあります。

町・無形文化財（民俗芸能）

21　ねり行事

Ushibuchi Ukishimajinja　　Nerigyouji

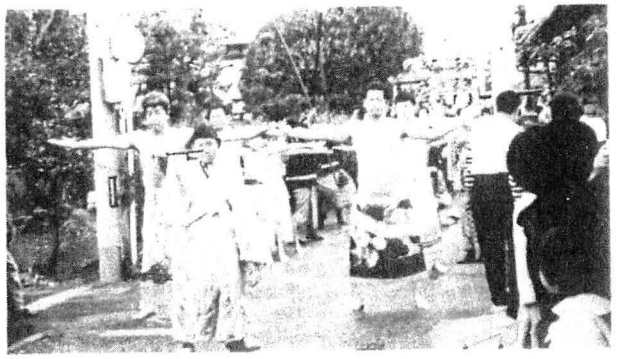
指定年月日	平成９(1997)年４月１日
所　在　地	大字牛渕584　浮嶋神社
保　存　者	浮嶋神社秋祭奉賛会
様　　式	神社→各旅所を巡り１kmを練り歩く。
構　　成	43種175人の奏楽演技の行列。
行　事　日	10月第２日曜日秋季大祭
場　　所	浮嶋神社→西御旅所→厳島社御旅所→堀池御旅所
発　生　期	幕末から明治初期ころと推定される。

浮嶋神社のねり行事は、獅子２頭、猿田彦…お鷹…鉄砲…日月神旗…拍子木打ち、行司と相撲力士…舞姫…馬…御矛輿…神輿と43種175人の荘重な練り歩きです。

中でも宮出し神事後の、化粧まわしを着けた４力士の土俵入りの所作は圧巻。

様式のいわれ等は、はっきりとしませんが、松山地方での練り等は珍しく、またこれほど大がかりな「ねり」はありません。

発生期については、安政年間の連歌帖にあるとの報告や聞き取り調査もありますが、確実な年代は現在のところ判然としていません。かつては、氏子の若者だけの練りでしたが、現在は45歳以下から小学生までの氏子総勢による運営となっています。



その他の文化財　19件

その他の文化財（考古資料）

22　自然緑釉長頸壺

Shitsukawa Kofungun　　Sizenryokuyu Choukeitsubo (Sueki)

発掘出土年	平成６(1994)年
発掘出土地	大字西岡志津川古墳群８号墳玄室内
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
器種・手法	須恵器・完形・外面　回転ヘラ削り後回転ナデ
法　　量	器高22.7㎝　口径10.2㎝　最大径16.6㎝
時　　代	６Ｃ末～７Ｃ（古墳時代後期）

重信町の北側に広がる丘陵地帯は、播磨塚の地名からも、古墳の存在地と推測されていましたが、調査の結果、20基以上の群集墳遺跡であることが分かりました。

平成５(1993)年から始まった、総合公園整備事業にからむ、埋蔵文化財包蔵地としての発掘調査で、16基の古墳が調査確認されましたが、旧陸軍の実弾演習地として、また、みかん畑への開墾などで、完全なものはまったくありませんでした。

そして、ほとんどの出土品は、古墳の祭礼後に供えた器類を、忌みを払うことで割ったものか、古墳の解体時の搬出で割れたかの破片の集積を示す、「土器溜まり」と呼ばれる状態でした。

そんな中で、８号墳玄室内の入口の石積みの端で見つかったこの長頸壺は、古代の火の不可思議な窯変を見せつつ、その端正な姿は、現代にも通じる唯一の完形品です。

その他の文化財（考古資料）

23　子持ち壺

Shitsukawa Kofungun　　Komochitsubo（Sueki）

発掘出土年	平成６(1994)年
発掘出土地	大字西岡志津川古墳群９号墳土器溜り遺構
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
器種・手法	須恵器・子持ち壺1/2残・回転ナデ、中位カキ目、 低部回転ヘラ削り後回転ナデ
法　　量	1　器高25.7cm　口径13.8cm　最大径15.7cm　子壺４個
	2　器高26.4cm　口径13.2cm　最大径14.3cm　子壺４個
	3　器高22.9cm　口径13.2cm　最大径14.3cm　子壺５個
時　　代	６Ｃ末～７Ｃ（古墳時代後期）

どの壺も、破片状態での出土でした。ジグソーパズルの組み立てよりもはるかに困難な時間をかけ、復元してみると、３点ともなかなかの出来映えなんです。

特に３番目のやや小型の壺は、小振りながらも小壺を５つ付けはなやかな印象を与えてくれます。そしてその子壺の底には親壺につながるように、穴があいています。

装飾子持ち壺は、ちょっとした古墳からはよく出土されます。

松山平野では、すぐ西近くの葉佐池古墳や砥部大下田古墳の大型子持ち壺が知られていますが、実用品ではなく、きらびやかさを競う儀礼的なものだったと言われています。

その他の文化財（考古資料）

24　人物・子持ち壺

Shitsukawa Kofungun　　Jinbutsu・Komochitsubo（Sueki）

発掘出土年	平成６(1994)年
発掘出土地	大字西岡志津川古墳群６号墳土器溜り遺構
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
器種・手法	須恵器・脚付広口装飾壺1/2残（人物・子持ち壺付） 上部回転ナデ・下部回転ヘラ削り後ナデ回転
法　　量	器高17.2cm　口径13.6cm　最大径15.0cm
時　　代	６Ｃ末～７Ｃ（古墳時代後期）

壺の肩口のところに、一体だけ高さ4.5cmの人物が付き、そのすぐ横には、子持ち壺が付いていたと思われるものです。

それとともに、別に角髪（みずら）を結い、目を鋭い串状のもので描き入れた同じ大きさの男性像が２体、出土しました。

うちの一体は、武人でしょうか刀を帯びていました。

つまり、高さ17cmの小振りな壺は、何体かの人物と、幾つかの子持ち壺が肩口に付いていた、物語性の強い装飾壺であったようです。

残念なことに、出土した破片が不足だったのでしょうか、どう合わせてみても、もとの形にはなりませんでした。

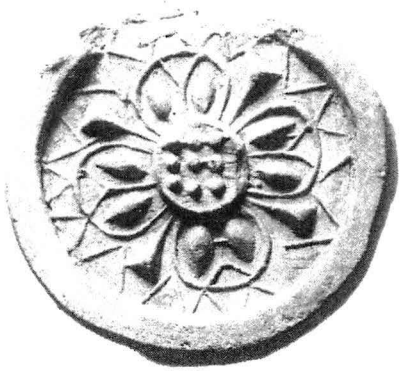
もし、完全な復元ができていれば、松山平野の装飾壺たちのスターになっていた筈です。惜しまれてなりません。

その他の文化財（考古資料）

25　伽藍の軒丸瓦

Shimohayashi　Garo no Nokimarugawara

発掘出土年	昭和41(1966)年・平成７(1995)年
発掘出土地	大字下林拝志古窯群伽藍１号窯跡出土
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
形　　状	複弁４葉蓮華文軒丸瓦
法　　量	長さ10.5cm～24.00cm　幅15.11cm～16.60cm　５点
材　　質	須恵器
時　　代	８Ｃ後半（奈良末期～平安初期）



伽藍（がろ）という地名から、この地区が奈良期の寺院跡ではないかと、古代に対する思いを持たせてくれていました。

昭和41(1966)年、下林に住まわれる現愛媛県文化財保護委員長森正史氏を中心とした公式調査により窯跡を発掘、軒丸瓦や皿、円面硯、土錘などの出土をみました。

平成７(1995)年の「ほ場整備にともなう発掘」では、27,302㎡を調査しましたが、整備地区の関係で、窯跡の全容に迫ることはできませんでした。しかし、その灰原跡から４点の軒丸瓦や多くの布目瓦・平瓦・坏蓋、皿、土錘、すり鉢、甕、壺などの出土とともに、灰原跡の土層断面の剝ぎ取りを得ることもできました。

それらの結果、寺院跡はなく、土器生産地であったことが明確になりましたが、この軒丸瓦は、松山平野のどこの寺にふかれていたのか、いまだ不明です。

その他の文化財（考古資料）

26　「中」刻字坏身片

Shimohayashi　Chukokuji Tsukimihen

発掘出土年	平成７(1995)年
出　土　地	拝志古窯群伽藍１号窯灰原跡出土
所有管理者	重信町・町立歴史民俗資料館
形　　状	坏身須恵器底部片・外部に「中」の字を刻む。
法　　量	残高4.5cm
材　　質	須恵器
時　　代	８Ｃ末（奈良末期～平安初期）

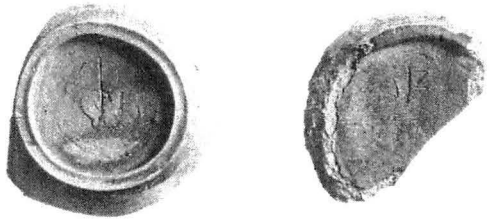
坏身（つきみ）とは、お皿と壺の中間の形で、今の深鉢に近いもの。

細いへら先でさっと刻み込んだ「中」の字の意味は、偶然に書かれたものなのか、作った人のサインであるのか、納品先の略名か、また窯印だったのか、まったく分かりません。

しかし、今のところ重信町で最も古くて、きちんとした文字であり、須恵器としてもがっちりとした焼締の破片です。

他に「井」字と、「Φ」の形の刻み印（ヘラ書き）がある坏身片が、併せて出土しました。

円面硯、文字入り坏身、摺り鉢、そして瓦が出土するなどから多品目の生産がほぼ100年あまりも続いていた、推定傾斜角20度、長さほぼ９ｍの半地下式無段窯２～３体の生活用品生産の大工房が想像されます。

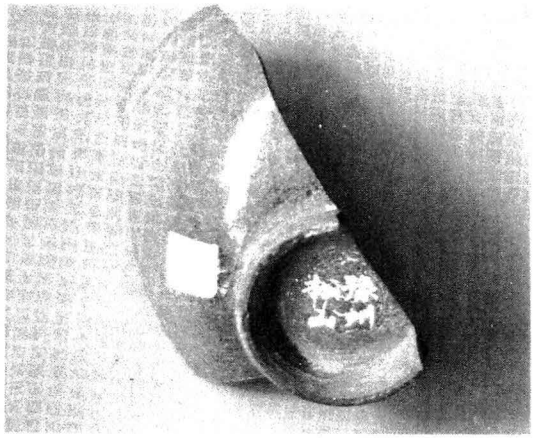


その他の文化財（工芸・歴史資料）

27　西岡窯予州松山記銘陶磁器片

Nishinooka　Nishinookagama Yoshu Matsuyama kimei tojikihen

調査表採年　昭和43(1968)年～平成９(1997)年
出　土　地　大字西岡奥屋敷乙３－６　西岡窯物原跡
所有管理者　重信町・町立歴史民俗資料館
形　　状　各種予州松山記銘陶磁器片
時　　代　寛政11(1799)年より明治初期まで



西岡の新池の北の斜面に、カラツ山と呼ばれる地区があり、陶磁器を焼いていた窯跡が残っています。

昭和43(1968)年、町教育委員会が３度の調査をし、多種多様の陶磁器片、窯道具類とともに「予州松山」の刻印入り小鉢片と同銘手書きの茶碗片を採収。その後、平成元(1989)年の大渇水により同所中池の底から、予州松山の記銘や刻印のある陶磁器片が多数採取されました。

砥部町の陶磁器研究家山本典男氏らの調査と、当町歴史民俗資料館の整理により、押印、記銘併せて16種が分かりました。

その後、松山市朝美町の松山藩陣屋跡（推定）、同市堀の内の武家屋敷跡などからも西岡焼が出土し、西岡焼は藩窯であったのではの推測が深まっています。

文書資料としては、砥部仲田家の「五惣治実録」に、寛政11(1799)年西野岡…と記されているのが、現在のところ初見です。

その他の文化財（記念物〈古墳〉）

28　上村壱町古墳

Uemura　Uemura Ichokofun

所　在　地　大字上村字壱町甲85－4
所　有　者　大字上村甲164　溝田俊弘
形　　式　横穴式古墳
時　　代　７Ｃ初期（古墳時代後期）

拝志地区上村の山裾一帯は、縄文、弥生の土器片が度々表採されるところです。

その中央部にある10数個の大石の集積が、古墳であると知られたのは、地元の石丸法明さんの案内で、平成元(1989)年、元愛大西田栄氏による確認からです。

石室の軸向きは南西より北東に通り、その長さは約6.8m。

基盤の石組の一部は認められるも、覆っていたと思われる盛り土は洗い落とされて石組は崩れ、なかには持ち去られた石もあるようです。

石そのものは、近くを流れる本谷川の砂岩を運んだと思われますが、石積みの中央部にはマキやツバキの大木が生い茂り、復元等は大変困難な状態です。

重信町の平地部の古墳は、かつて南吉井小近くにあった太郎丸古墳と、この壱町古墳が知られる程度です。

壱町の名は、この付近の小字壱町・弐町・参町からです。

その他の文化財（工芸）

29　土俵空穂

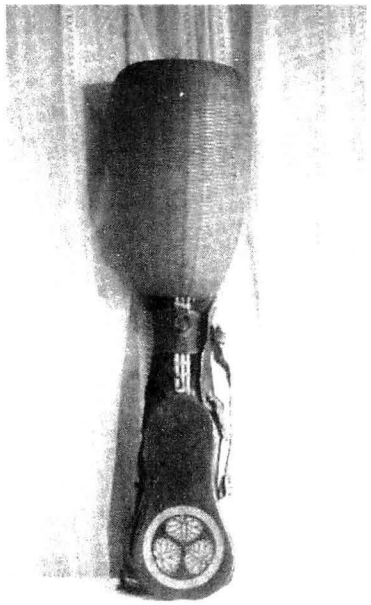
Noda　Dohyo utsubo

所　在　地　野田１丁目20－11　徳威三嶋宮
管　理　者　同　20－12　徳威三嶋宮宮司
材　　質　竹・猪毛皮　縦102㎝　最大幅27㎝
時　　代　寛永年間(1630年前後)

矢を何本も入れて腰や背中に負うか、従者に持たせる武具ですが、矢が雨に濡れるのを防ぐ役目も持ちます。靫（うつぼ）とも。

もともと、土を詰めた俵を土俵空穂と言い、略して土俵となったのですが、これは、矢を盛り入れる道具ですから中は空。穂の形が土俵に似ていることから空穂（うつぼ）と呼んだのでしょう。

古式は、竹か葛藤で編んだ部分を毛皮で覆いますが、後には漆塗りになります。つまりこの空穂は古式ということになります。



空穂下部の間塞（まふさぎ）には葵の紋があり、上部の穂は、大名道具らしく大きく作られていますが、徳川氏縁戚の松平定行が、寛永12(1635)年、伊勢桑名から松山藩に入部もないころ、このお宮に参拝し奉納したものという伝えが残っています。

それは、前藩主の蒲生忠知が、ここ徳威原を開発のとき、古社寺の移転合祀を強行したため祟りを受け、子供に恵まれないばかりか、若死をして後継ぎが絶えたとの風評から、定行公が古社寺の鎮魂慰霊のために奉納したという伝えです。

その他の文化財（書跡）

30　芝山持豊和歌詠草軸

Noda Tokuimishimagu　Shibayama mochitoyo waka eisou jiku

所　在　地　野田１丁目20－11　徳威三嶋宮
所　有　者　同　20－12　徳威三嶋宮宮司
形　　状　紙本金箔散らし・布軸装茶掛け　縦23㎝　横34㎝
時　　代　江戸後期
和　　歌　野月

浅ちふや　柴能本留　露に寿む月の
ひかりを散らす　乃べ濃秋風

一夜　野もりの庵に　やどりして
まくらもとら須　め都留　月か氣

芝山持豊は、寛保２(1742)年、（松山では久万山騒動があったころ）に、公家中納言芝山豊重の子に生まれ、本居宣長の学風を慕い国学・歌道に通じ、殿上歌人として独自の存在を示した人。

後に権大納言（雛壇に飾る右大臣、左大臣の次にあたる地位でしょうか、定員外の大納言）となり、天皇への奏上や伝えの役を務め、文化12(1815)年、74歳で没しました。

この軸は、彼の没後間もない文政２(1819)年に、野田村の郷士都賀村伝治衛門越智直達が、徳威三嶋宮に奉納したものです。

その他の文化財（工芸）

31　玉殿神座と迦陵頻伽

Shitsukawa Tenmanjinja　Gyokuden shinza・Karyoubinga

所　在　地　大字志津川字出口甲1512　志津川天満神社
管　理　者　同　甲1407　天満神社宮司
形　　状　総桧造り・こけら葺き・入母屋造り・漆下地に極彩色
　　絵画・高さ187㎝
時　　代　江戸時代
文書資料　元禄15(1702)年２月吉日　天神社玉殿一宇成就
　　神主高市出雲守家永・志津川庄屋願主山内九郎右衛門
　　元和・松山大工坂本小左衛門

この玉殿は、天満神社の本殿最奥部に、はめ込んだ状態であったため、土地の人たちも、在ることに気がついていなかったようです。

昭和62(1987)年の文化財調査でその存在が分かり、お宮に残る元禄15(1702)年の文書中（上記）の何をもって玉殿としているのか不明であったのが、この玉殿であったと確認されました。

特に、右側面には、迦陵頻伽（かりょうびんが）が描かれています。

迦陵頻伽は、仏教で極楽にいる人頭・鳥身の想像上の神仙鳥で鳴くときは、（若空無我常楽我浄）の意を伝える妙音を発すると言われています。社に仏の世界、神仏習合時代を物語るものです。

伊予旧記では、河野氏の伊予天神25社の一つに入っています。

その他の文化財（絵画）

32　騎馬中国武将絵馬

Shitsukawa Tenmanjinja　Kiba chugoku busho ema

所　在　地　大字志津川字出口甲1512　志津川天満神社
管　理　者　同　甲1407　天満神社宮司
形　　状　杉板３枚合わせ・彩色　縦164㎝　横105㎝
時　　代　天保12(1841)年
額　縁　字

関羽？張飛？それとも項羽なのか。なかなかの表現力です。

そのなかなかが、夜になると絵馬板から馬と将軍が抜け出して歩き回るという噂になりました。

そこで、抜け出さないようにと絵馬に金網を張りましたが、何日かすると、また、夜な夜な歩いているのを見たという話が広がり、絵馬を見に行くと、金網は内から破られたようになっています。

結局、金網は破られたままで、その破片は、今も残っているとか。

奉納は、当時の志津川村最大の豪商、米田屋が行ったもの。

米田屋は、代々善根奉納を家憲とした家で、大庄屋格として扱われましたが、明治に入って屋号は廃絶しました。

その他の文化財（歴史資料）

33　雨乞い三面

Noda　　Amagoi sanmen

所　在　地	野田１丁目20－11	徳威三嶋宮		
	大字牛渕584	浮嶋神社		
管　理　者	野田１丁目20－11	徳威三嶋宮宮司		
	大字牛渕718	浮嶋神社宮司		
材質・法量・時代	木造第１面	縦17.5cm	横14.5cm	室町期
	第２面	縦18.5cm	横16.0cm	室町期
	第３面	縦17.0cm	横15.0cm	鎌倉期

藩政時代に「雨乞い神事」に用いられたことで「雨乞い三面」として知られている神面です。

また、享保17(1732)年、松山藩寺社奉行の定番により、毎年12月20日を「御面渡御祭」と定め、隔年ごとに三神面を三嶋宮・浮嶋社の両社宮の本殿で交互に祀るしきたりがあります。

面の特質は、３面とも能面とは異なる翁面であること。

第１面は、普通の翁面より小振りであること。

第２面は、やや大型で白式尉と思われること。

第３面は、黒式尉で木地のままの彫技が良好であること。

などがあげられます。

「翁」面は儀式的所作に使われ、物語性を伴わないのが普通です。そんなことから雨乞面として成立したのではないでしょうか。

その他の文化財（風俗資料）

34　野田天神「野田土人形」

Noda　　Noda Tenjin

創　始　者	大字北野田　東倉市太郎
発　生　年	明治20(1887)年ころ
現制作者	大字南野田254－2　明賀利保
所　　蔵	大字見奈良509－3　町立歴史民俗資料館
材　　質	土・素焼き・胡粉下地・膠溶き泥絵の具彩色

野田天神の始まりは、流浪の人形づくり（浄瑠璃語りとも）と北野田の東倉市太郎さんとの出会説に、市太郎さんの「住吉人形」と「博多人形」の勉強の産物との二説が伝えられています。

型も市太郎さんは木型のようでしたが、その弟子の明賀鶴太郎さんは、土型を使っています。土は平井谷や久米の土でした。

首は最初から差し首で、芯は竹のときと木の場合と土首の三種。

後に、もう一人の弟子野首新太郎さんが上村天神を始めます。

松山天神は、粘土にオガ屑を入れて焼きはなし。野田天神は、土型取りをして素焼き後に彩色しますが、派手さを嫌ってか、天神につきものの梅鉢模様と竹は描いていません。

「艶出しは、顔が最もむつかしく、膠かけに年季も要り、また冬場の風に当ててこそなので、作る時期も個数も限られる」と、鶴太郎さんの二代目、明賀利保さんのお話です。他に福助なども作られていますが、天神ともども、県外からも人々が求めます。

その他の文化財（植物）

35　シラカシと龍神社社叢

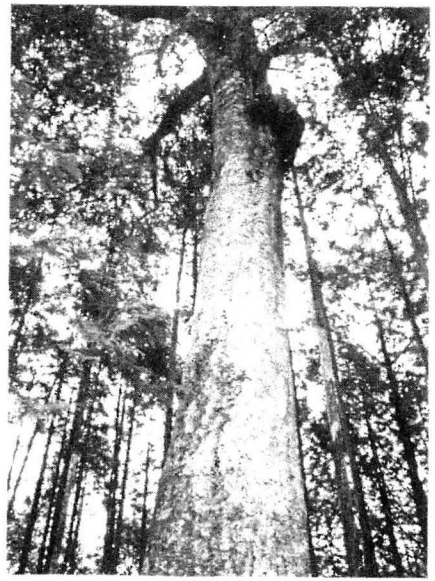
Yamanouchi Kamikurotaki　Shirakashi to Ryujinjashasou

所在地	大字山之内字上黒瀧1848
所有者	同　　龍神社
管理者	大字下林甲1033龍神社宮司
群落組成	ウラジロガシ・シラカシ・アカシデ・コシアラブ・ウラジロノキ・ツルシキミ・ヤブニッケイ・ヒサカキ
総面積	約10,000㎡

山之内神子野（みこの）の黒瀧橋から谷添いの山道を4㎞ほどを登ると、左側に茅葺寄棟造りの八脚門や社殿があります。

文明年間(1475年前後)に明神ケ森から、この上黒瀧（奥黒瀧とも）の地に遷したと伝えられる「龍神社」です。

古くは、黒瀧龍神社と呼ばれていましたが、社名からも推測できるように、藩政時代から「雨乞い祈願所」として、郡代官の奉幣があった社です。



社殿前の林道を隔てた南側に、目通り313㎝・樹高23m・根廻り486m・樹齢300年ほどのシラカシが立っています。

社を取り巻く樹の多くは、ウラジロガシの大木ですが、それらを中心に、海抜500～800mの暖温帯上部の原生林の名残を十分にとどめるとともに、その他の植生類も、カシ林域を特徴づけるものがほとんどで、貴重な社叢といえます。

その他の文化財（植物）

36　臥龍の松

Nishinooka　Garyu no Matsu

所在地	大字西岡1050　大西武志宅
所有者	同
形状	全長46m　土塀の門を中心に東へ23.5m　西へ22.5m
樹種	クロマツ
樹齢	推定150年

110年前、土塀を造るとき、門のそばに植えていた松の枝を左右に分けたのが始まりとか。

土塀の1.5mの高さから、東西に水平状態で枝が分かれ、現在もそれぞれ延びつつある樹です。

松枯れが次々とあるなかで、旺盛な樹勢を保っているのは、樹が薬剤防除作業をするのに適当な高さであること、防除の薬剤に無理がないこと、根が宅地内にあり、敷地内の果樹園の肥料が自然に松のものとなっていること…などがあげられます。

町の天然記念物となっている、見奈良の大ツツジも宅地内ですが、現在の自然環境を考えたとき、木々を保ち育てるのに、自然にゆだねる部分と、人の手を最小限のところで止める配慮が、うまく合っている好事例の感がしてなりません。

それにしても、堂々悠々と延びたもので、龍が臥せている姿に見立てられるのも、うなづけます。

その他の文化財（民俗芸能）

37　獅子舞

Shishimai

	保存会等名	上演期日
1	樋口獅子舞保存会	秋祭り・前日・前々日・町大会
2	志津川獅子舞保存会	秋祭り・前夜　町大会
3	西岡獅子舞保存会	秋祭り　町大会
4	見奈良獅子舞保存会	秋祭り　町大会
5	田窪獅子舞保存会	秋祭り・前日　町大会
6	北野田獅子舞保存会	秋祭り　町大会
7	南野田獅子舞保存会	秋祭り　町大会
8	掘池獅子舞保存会	秋祭り　町大会
9	牛渕獅子舞保存会	秋祭り　町大会
10	上林上獅子舞保存会	秋祭り・前夜・前日
11	上林下獅子舞保存会	秋祭り・前夜・前日
12	下林上獅子舞保存会	秋祭り　町大会
13	下林下獅子舞保存会	秋祭り　町大会
14	上村獅子会	秋祭り　町大会

その他の文化財（民俗芸能）

38　伊予神楽（里神楽）

Iyokagura（Satokagura）

	通称・保存会名	上演期日・場所等
1	春祭りのお神楽 下林里神楽保存会	秋祭り 片山神社
2	伊予の里神楽 牛渕　昭和クラブ	秋祭り前日・除夜～元旦朝 浮嶋神社
3	夏祭りのお神楽 上林お神楽保存会	夏祭り（7月第2日曜） 城山天満宮

その他の文化財（民俗芸能）

39　祝福芸

Syukufukugei

1	上林万歳 伊予万歳保存会	敬老会・公民館祭・学芸会等 昭和初め北条から上林に移住した村上儀一さんが伝えたもの。

その他の文化財（民俗芸能）

40　盆踊り

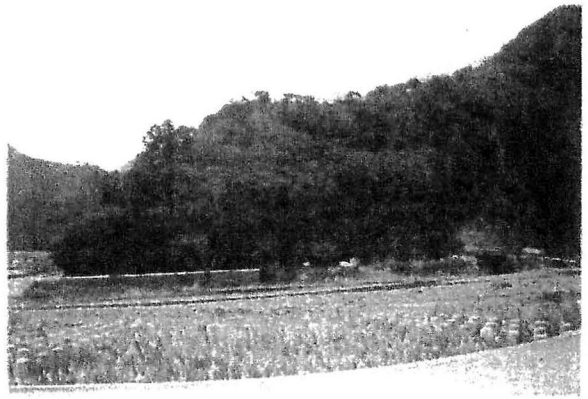
Bonodori

1	お和田さん（通称） バンバ踊り キママ踊り 和田霊神由緒口説きが残る。	8月15日夜・旧暦9月8日夜 志津川慈光寺隣り和田霊堂前 岩伽羅城の出城、吉山城の和田吉盛が疫病の身を押して、荏原城主平岡房実と戦い、討ち死にしたのを、疫病の守り神として祭ったことが始まりとか。踊り終えて帰るのを「さがる」と言うしきたり。

中世古城跡　8件

1　烏ケ嶽城跡

重信町大字山之内字藤之内

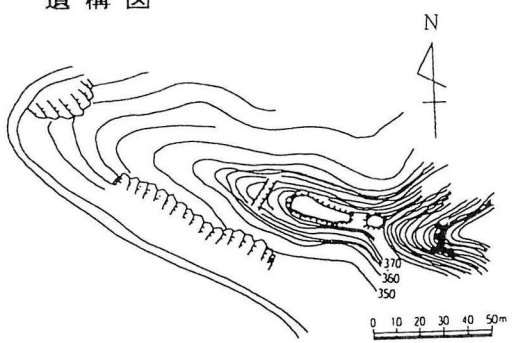


重信川の上流、山之内字藤之内（標高370メートル）にあり、天然林の生い茂った急峻な山中は、今なお野猿の棲息が認められるところである。

元亀年中(1570～1572)、渡部丹波守・渡部隼人らがこの城に拠ったといわれ、岩伽羅後方を守る和田氏の属城であった。

重信の渓谷を眼下に見下して屹立するその山容は、天嶮を利して築かれた典型的な中世山砦を思わせる。

遺構図



遺構は、小規模で、2つの郭と2本の堀切のみが残されている。

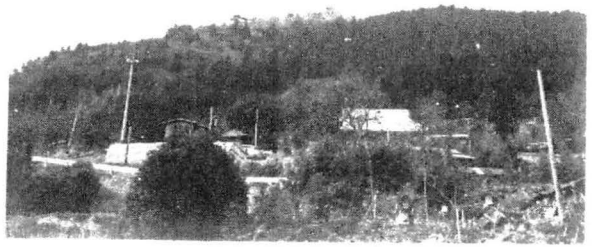
桜三里開通まで、この重信川に沿った谷間の小道は、東予方面に通じる唯一の駅路であったといわれ、「馬木」の地名はその名残である。

この「烏ケ嶽城」はその位置や規模からみて、監視哨的な重要な役割を果たしていたものと思われる。

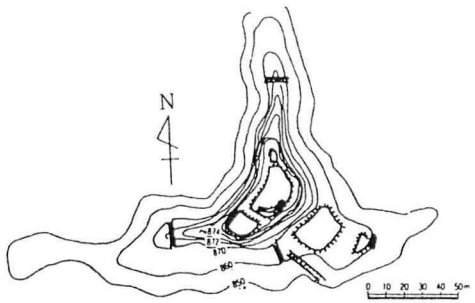
2　麓城（十門・重門城）跡　　重信町大字山之内字麓

標高689メートルの山上に位置し、十門城・重門城ともいう。

城主は南北朝時代宮方を奉じた加藤遠江守といわれ、文中3年正月、吉野より覚理法皇（長慶天皇）を奉迎したため「御所の城」ともいう、と伝えられている。



遺構図

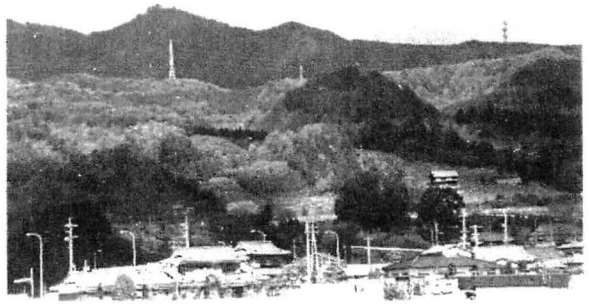


麓地区の人は、今もほとんどの家が加藤姓を名乗っており、里人は、地区のすぐ後背にそびえる古城跡を城山と呼んでいる。この城は、自然の天嶮を利用した山城で、その遺構は広大な規模である。山頂本丸を含め5つの郭と周辺に土塁を築き、山麓部に5本の堀切を構えている。

また、麓城には、得能左馬介通興なる者が拠ったとも伝えられているが、その築城年代や、歴代城主の事実を立証する資料はなにもない。この城は不思議なことに、当然登場が予想される戦国時代にその名がみられず、和田一族（岩伽羅）との関係なども不明である。

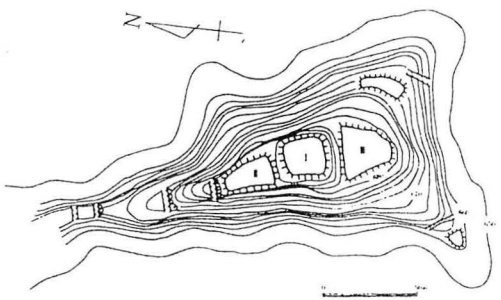
3　岩伽羅城跡　　重信町大字樋口字椿谷

この城は、樋口北部の山岳部、標高687メートルの山頂に位置する町内最大の中世山城である。



城主は、志津川を中心とする重信川上流の右岸一帯を支配した和田氏である。和田氏は河野氏の被官であったが、天文23(1554)年和田通興が主家に反旗を翻し、河野氏の重臣平岡房実に攻められ落城、通興は自刃した。その後、河野通宣の裁領により、和田氏歴代の功を考慮し、民間にあった和田一族の通勝を召し出し岩伽羅城を継がせることにした。その後和田通勝の名は、戦国末期の河野氏の重臣として諸書に見え、各地の合戦で軍功をあげている。天正13年秀吉の四国征伐の時、河野氏の滅亡とともに本城も落城したものと思われる。

遺構図



遺構は、標高680メートル級の尾根の走行方向に沿って南北にのびている。大きな3つの郭と出丸様小削平地が2つ、堀切6本が残されている。

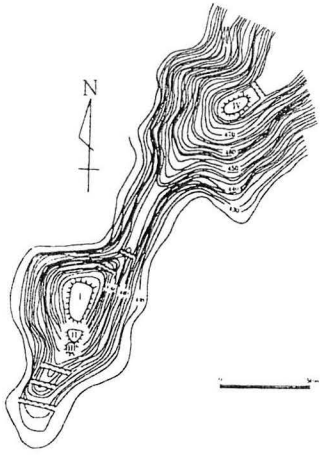
4　衣掛城（絹掛・衣懸城）跡　重信町大字樋口字衣懸

この城は、樋口の北方、字衣懸の標高466メートルにある。岩伽羅城の南腹にあり、また、吉山城の東北方に位置する。衣掛城は、吉山城とともに岩伽羅城の支城として、その前衛的役割を果たしていたものと思われる。

天正年間、日吉六郎衛門なる者がこの城を守っていたと伝えられている。日吉氏の名は「河野分限録」に、岩伽羅城主和田通勝の家臣としてみえており、和田一族と運命を共にしたことはまちがいないと思われるが、この城については規模も小さいためか伝説も少なく、詳細は不明である。

遺構は、支城らしく小規模であるが、東・西・南側は急峻な崖によって守られている。南部には３つの郭と５本の堀切があり、北部には１つの郭と１本の堀切が設けられている。北部の施設は、南部の主郭部が落ちた場合に、岩伽羅城への直接の攻撃をくいとめるためのものと判断される。

遺構図



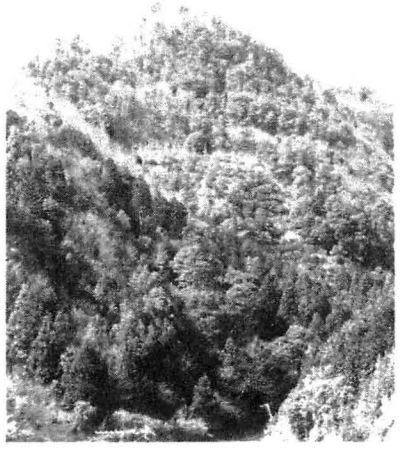
5　吉山城（由井城）跡　重信町大字志津川字城ケ谷

この城は、志津川の北方、字城ケ谷の標高260メートルにあり、岩伽羅城の支城として、衣掛城と同様、その前衛的役割を果たしていたと思われる。

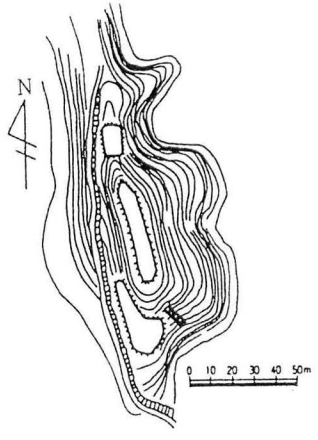
天文23(1554)年城主和田河内守吉盛は、岩伽羅城主和田通興の反乱に組し、河野氏の重臣平岡房実の軍と奮戦するが、田窪原で伏兵に囲まれ自刃、落城したという。

吉山城は和田氏滅亡後荏原城主平岡房実の持城となったが、その後再び、和田一族の起用により、岩伽羅城主和田通勝の支城となった。天正13(1585)年秀吉の四国征伐の時、河野氏の滅亡と共に廃城となったと思われる。土地の人々は、今も「城山」と呼んでいる。

遺構は、屹立した山容は谷が深く、自然の地の利を生かし３つの郭と出丸様小削平地１つ、立堀１本の跡がみられ、中世山城の遺構をよく残している。



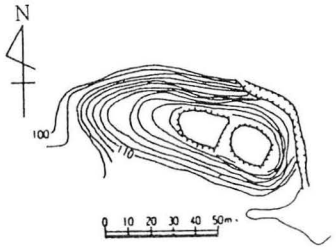
遺構図



6　庄司城(野中・柚ノ木・柚之子・生子山城)跡　重信町大字下林別府

野中氏之碑

柚之子城跡在浮穴郡別府山従五位下野守権守経信所築経信橘左大臣十一世之孫経氏之二男也天慶二年
従兄遠保征藤原純友以功賜紀州野中里元暦元年末八月転任伊豫賜拝志郷始築是城居焉後八年興越智好峰
戦父子陣没其臣長峰正徳大宅信国等扶其夫人及二子走阿州経信十一世之孫従五位下保勝奉足利氏命転於
泰信吉因分賜土州長岡郡経信二十一世之孫蔵人保寛二男保正有故辞泰氏去土州退居於拝志◇旧跡子孫連
綿到於今
文久二年壬戌八月



遺構図

この城は、下林字別府、佐川谷入口の標高125メートルの小山（通称城山）にある。天暦年間(947～956)に野中権守経信が築き、その後河野一族の別府左京亮野中隼人等が城代として居城したと言われている。城跡墓碑と祠堂が建てられている。

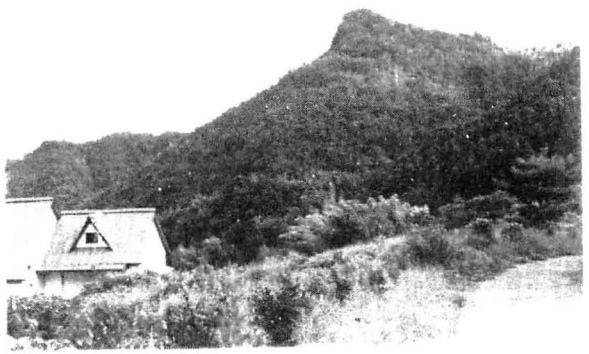
遺構は、東西に２つの郭、東側に堀切１本がある。地形・規模等からして砦としての役割を持っていたものと考えられる。

7　三嶽城(佐川城)跡　重信町大字下林佐川

この城は、下林字佐川の標高438メートルの御岳山にある。東に上林、北に重信平地部、西に松山市窪野を見下すことができる。また、三方断崖絶壁、わずかに一方狭小な尾根が通じているのみである。

伝承によれば、この城は要塞堅固なため1,000人の敵を10人で防いだといわれ、南北朝の頃、南朝方の河野伊予守の一族の居城であったと伝えられている。然しながら、これらを立証する資料はなく詳細は不明である。

遺構は何も残されておらず、一部に矢竹が繁茂しているにすぎない。地形上烽火台が設置されていた可能性も考えられる。

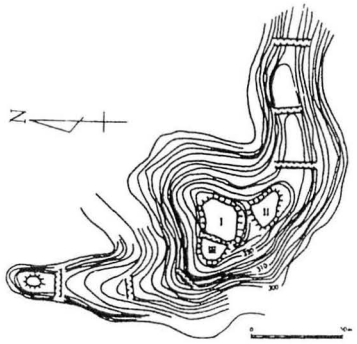


8　花山城（天神ケ森城）跡　重信町大字上林字花山

この城は、上林字花山の標高325メートルの小丘陵上にあり、はじめは荏原の平岡氏の枝城であった。

天文22(1553)年８月、久万大除城主大野紀伊守利直はこの城を攻略し、平岡氏の城代相原土佐守を破って家臣の森伊豆守を城代とした。以来、森氏の居城であったと言う。一方、永禄期のものと推測される古文書に、その頃相原出雲守経秀が「天神森」城主であったことが明記されており、森氏のあと再び相原氏がこの城に在城した可能性もある。

遺構図

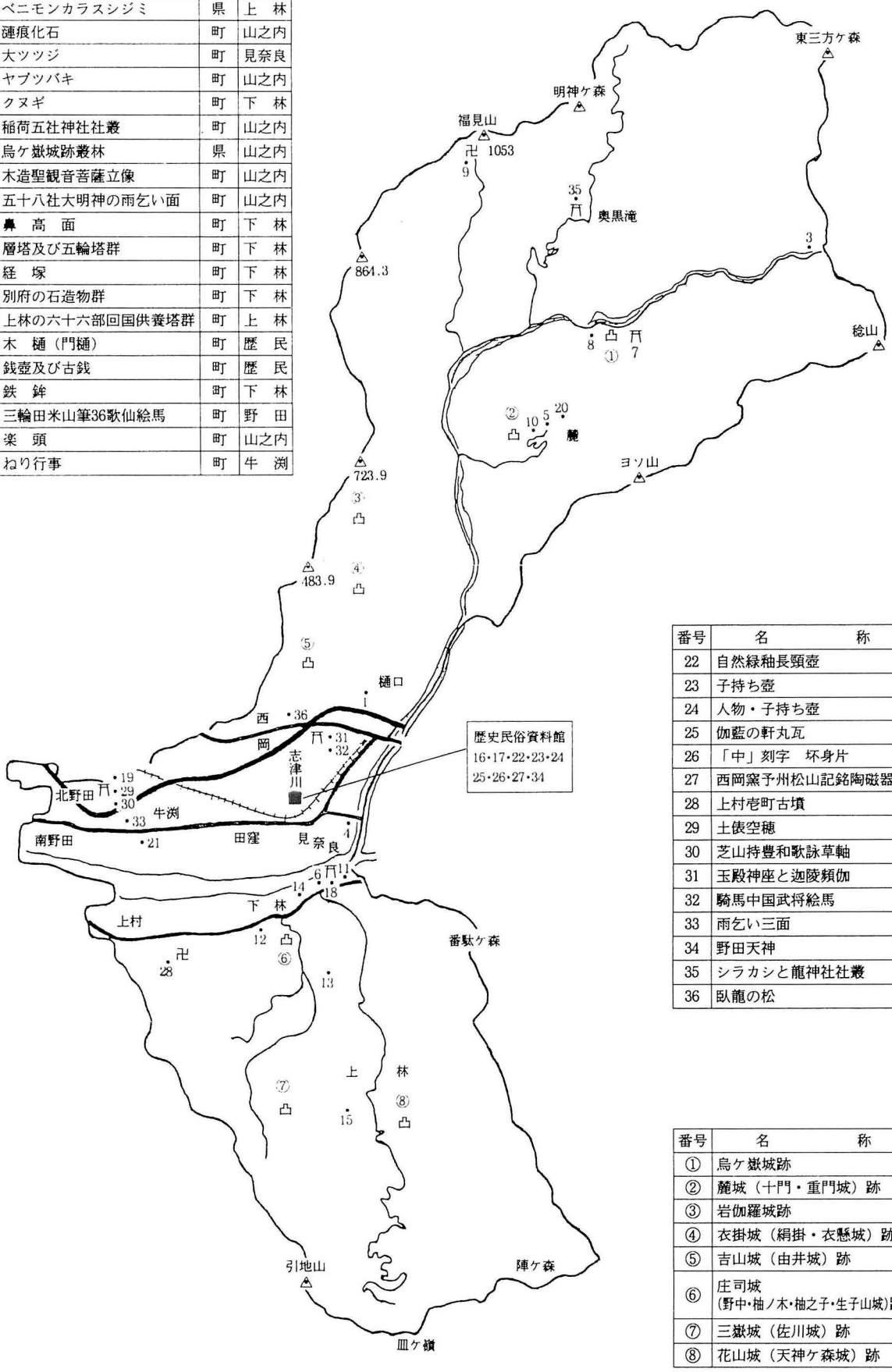


遺構は、東西にのびる尾根上に、３つの郭と出丸様小郭が１つ、主郭の両側尾根上にそれぞれ３本ずつの堀切が設けられている。

この城は、三方断崖絶壁、尾根上には、堀切を設け山城の規模・構造をよく整えていたことがうかがえる。また、２つの郭には礎石と思われる平板な石が散残し古城跡にふさわしい面影を残している。

重信町文化財散歩地図

番号	名　　称	指定	所在地
1	北吉井のビャクシン	国	樋　口
2	ベニモンカラスシジミ	県	上　林
3	蓮痕化石	町	山之内
4	大ツツジ	町	見奈良
5	ヤブツバキ	町	山之内
6	クヌギ	町	下　林
7	稲荷五社神社社叢	町	山之内
8	烏ケ嶽城跡叢林	県	山之内
9	木造聖観音菩薩立像	町	山之内
10	五十八社大明神の雨乞い面	町	山之内
11	鼻　高　面	町	下　林
12	層塔及び五輪塔群	町	下　林
13	経　塚	町	下　林
14	別府の石造物群	町	下　林
15	上林の六十六部回国供養塔群	町	上　林
16	木　樋（門樋）	町	歴　民
17	銭壺及び古銭	町	歴　民
18	鉄　鉾	町	下　林
19	三輪田米山筆36歌仙絵馬	町	野　田
20	楽　頭	町	山之内
21	ねり行事	町	牛　渕



番号	名　　称	所在地
22	自然緑釉長頸壺	歴　民
23	子持ち壺	歴　民
24	人物・子持ち壺	歴　民
25	伽藍の軒丸瓦	歴　民
26	「中」刻字　坏身片	歴　民
27	西岡窯予州松山記銘陶磁器片	歴　民
28	上村壱町古墳	上　村
29	土俵空穂	野　田
30	芝山持豊和歌詠草軸	野　田
31	玉殿神座と迦陵頻伽	志津川
32	騎馬中国武将絵馬	志津川
33	雨乞い三面	野　田
34	野田天神	歴　民
35	シラカシと龍神社社叢	山之内
36	臥龍の松	西　岡

番号	名　　称	所在地
①	烏ケ嶽城跡	山之内
②	麓城（十門・重門城）跡	山之内
③	岩伽羅城跡	樋　口
④	衣掛城（絹掛・衣懸城）跡	樋　口
⑤	吉山城（由井城）跡	志津川
⑥	庄司城 (野中・柚ノ木・柚之子・生子山城)跡	下　林
⑦	三嶽城（佐川城）跡	下　林
⑧	花山城（天神ケ森城）跡	上　林

重信町立図書館
平 10.5 1 成
100427

発行年　平成10(1998)年3月
重信町の文化財と史跡
（第2集）平成9年度版

編　集　町立歴史民俗資料館
〒791-0211 重信町大字見奈良509-3
☎・F兼　089-964-0701
監　修　重信町文化財保護審議会委員
発　行　重信町教育委員会
〒791-0212 重信町大字田窪2370
☎ 089-964-1500　FAX 089-964-5025
印　刷　有限会社 有光印刷
〒791-0211 重信町大字見奈良1429-7
☎ 089-964-2092　FAX 089-964-0886